

心と心、笑顔のリレー

たすき

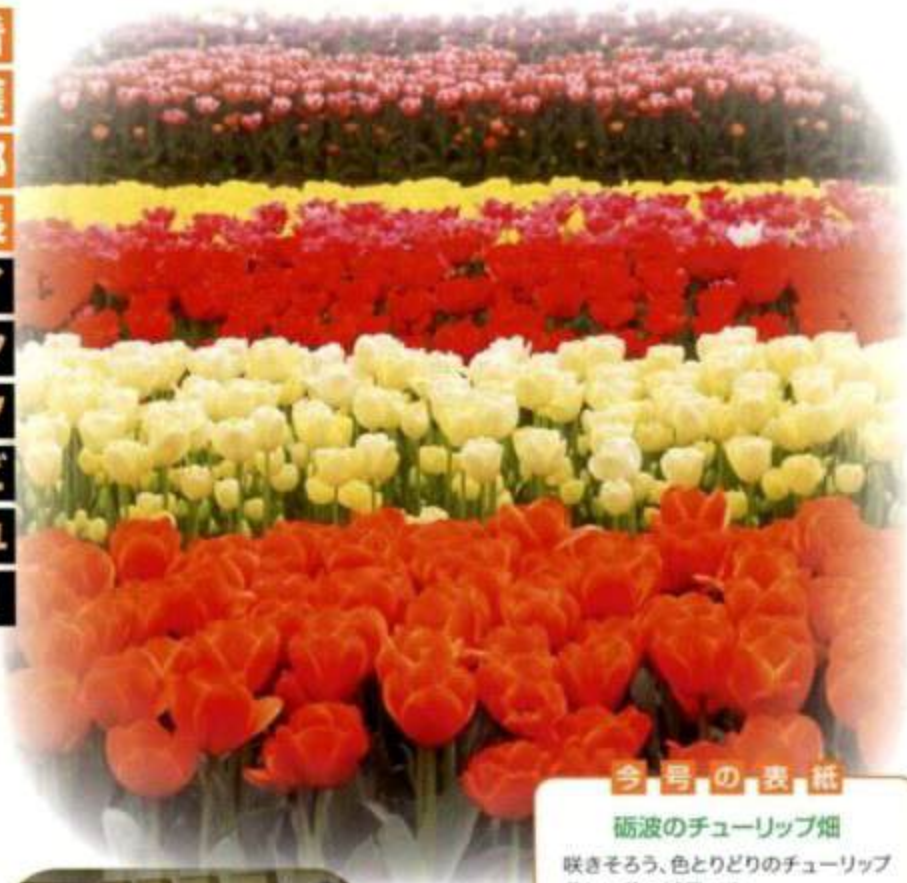
TASUKI

TAKE FREE
VOL.
02
2008年
5月発行
ご自由にお持ちください

看護師は患者さんや家族からの言葉を伝える大事な「たすき」役

手厚い看護を実現！
フレキシブルな対応で、

看護部長インタビュー



今号の表紙

砺波のチューリップ畑

咲きそろう、色とりどりのチューリップ
美しい花の絨毯です



特集

がんばれ！
新人看護師

治療の最前線

急性心筋梗塞のカテーテル治療

認定看護師監修

院内摂食・嚥下への取り組み



社会福祉法人 済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/>

〒931-8533 富山市橋本33番1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
地域医療連携室
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131





看護部長インタビュー

フレキシブルな対応で、手厚い看護を実現!

看護師は患者さんや家族からの言葉を伝える大事な「たすき」役

富山県済生会富山病院
看護部長 山崎列子



多忙を極める看護業務。

そんな中「笑顔は一日の始まり、そして終わり」が信条の看護部長に、看護に対する心構えや病院の方針などをうかがいました。

―平成20年度の看護部長の抱負をお願いします―

患者さんにも看護職員にも選ばれる魅力ある病院を目指したい、というのが私の抱負です。患者さんのニーズへの対応はフレキシブルにおこなう、他の病院にない一味違った看護を提供したいという思いがあります。フレキシブルな対応とは、手厚い看護が必要な時間帯に、看護助手やパートの看護職員に、時間差で、勤務してもらおうような体制ができたらいかなあと思っています。また、医師と患者さんや、ご家族間のさらに地域との「たすき」役になれる専門看護師を育てていきたい。当院の看護の魅力として、手厚い看護＝専門職看護といったような、キラリと光るような特色を出したいと思うんです。当院には※認定看

護師以外に、糖尿病療養指導士・呼吸療法認定士・消化器内視鏡技師などの資格を持つ看護士が職員の約20%います。それを看護の現場で生かして、当院は患者さん中心にこんなふうにやっていますよーと、新人および潜在看護師さんへPRしたい!

※認定看護師 日本看護協会認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者をいう。

―新卒看護師にやさしいモデル病院事業とは?―

元々は、当院がこの事業へ参画したのは、スタッフ募集のためでもありましたが、そのためには、新卒看護師に優しい病院でなければいけないと同時に、同僚や患者さんに対しても優しい病院じゃないと、新人ナースが集まってこない

んじゃないかなと思っていました。従来はプリセプター制でお姉さん(先輩)ナースが一生懸命付けて育てるっていう方針だったんです。それは勿論続けていく訳ですが、看護部全員が、新人ナースを育てていくっていう気持ちでいきいかなあと思っています。就職して一年経ったナースの声として「先輩には色々指導して



Special Interview



もらった。でも優しく教えてもらっただけではなく、ある時は厳しく注意もされ、とても勉強になった」とありました。新しい教育体制は、済生会の独自のものです、ステップを順番に上がっていった、一年経つとひとり立ちの時期までたどりつくといったものです。特色の一つは、シャドー研修です(6ページに写真あり)シャドー研修ってというのは、影のように先輩ナースに何も言わず付いての研修で、新人ナースは先輩の動きをみて、一日の流れを把握し、自分でもやっていけそうだと、実感する。一方、先輩のナースは、

新人に付いてこられたら、自分の動きの無駄に気付く。お互いそういった気付き合いのために有意義であり今後も続けていきたいと思っています。

—看護職を続けてきて、辛かったことはありますか？

辛かったことは……ありませんね。20歳で結婚、出産してから、県総合衛生学院の第二看護学科(夜間)へ入学しました。勉強しながら子育てと仕事を両立していく上で、とても眠かったのを記憶しています。帰宅しても、寝てばかりいたら、子どもが「お母さん、寝ると」と言って近所の人にいつも言いふらしていたことを覚えています。本当にこんなにまでして勉強しなきゃいけないのかなあと思いました。若い時のパワーで一気にかつたなあと思います。「自分を褒めてやりたい」と思っています。今は楽しい思い出ですね。

—若い看護師さんに期待したいことはありますか？

結婚で家庭と仕事の両立が難しい、また通勤距離が遠くなるから辞めたいという人は少なくありません。この病院の理念にも謳っていますが、専門職看護を提供することによって、一生の仕事としてやりがいにつながると思う。辞めないで続けてほしい。チャンスは自分でつかむもの、若いうちは前向きに、いろいろなことにチャレンジしてほしい。

—部長さん、すごく笑顔が素敵なんですけど、心掛けていることはありますか？

笑顔は、一日の始まりで、一日の終わりだと思ってるんです。朝来て自分が笑顔で皆と話した時には、その日一日はいい気分です。嫌なことがあると、私は日本酒が好きだから、夜、趣味で集めたぐい呑で、お酒を飲みながら笑顔をつくりリラックスしています。

そして、明日はいいことがあるだろうと信じて眠るんです。なるべく笑顔は絶やさないで、過ごしていきたいなあと思っています。自分らしく、自然体で……。

—山崎看護部長、本日はありがとうございました



PROFILE

看護部長プロフィール

1950年12月生まれ 射手座

〈極めていること〉

話力の勉強を始めて15年
人間関係作りに入れている

〈趣味〉ぐい呑を集めること

〈嗜好〉日本酒、お刺身

急性心筋梗塞のカテーテル治療

当院ではカテーテルを使い積極的に急性期治療を行っています

1 急性心筋梗塞とは

心臓の筋肉(心筋)を養っている冠動脈が急に閉塞することにより心筋が壊死する病気で、高い死亡率(約30%)の病気です。

胸痛など疑わしい症状があれば、なるべく早く来院して下さい。

2 治療は

診断後、すぐに冠動脈の閉塞を解除することで、急性期合併症(心不全、不整脈、心破裂)が減り、10%未満に死亡率を低下出来ます。

このためいろいろなカテーテル(写真参照)を駆使し、治療します。

3 治療の実際



冠動脈の閉塞



血栓の吸引で血流再開



血管内超音波で病変を確認



再開通し、治療終了



ステントの留置

ガイドワイヤー

血管のなかで道しるべとなります



ガイディング カテーテル

冠動脈の入り口に挿入します

バルーンカテーテル

狭窄部を拡張します



血栓吸引 カテーテル

閉塞の原因である
血栓(血のかたまり)
を吸引し、除く



血管内超音波 カテーテル

血管の中や壁の状態を
詳しく見る



ステント

血管を拡張、補強する金属



循環器医師
による
カテーテル
治療



認定看護師誕生

院内摂食・嚥下への取り組み

摂食・嚥下障害看護認定看護師 高田和加子

私は脳神経外科病棟に所属しております。普段は三交代で夜勤をしながら週1回(木曜日)嚥下の日としての活動を行っています。活動内容は院内摂食・嚥下サポートチームの一員として嚥下回診、カンファレンス、嚥下評価、摂食機能療法対象者への訓練計画立案および実施、嚥下マニュアルの作成などです。当院の摂食・嚥下サポートチームは栄養サポートチームの下部組織として担当医師、歯科医師、歯科衛生士、リハビリスタッフ、管理栄養士、看護師で構成されています。また看護部内に摂食・嚥下委員会ができ各病棟の担当者が院内サポートチームとともに活動を行うことで情報交換がスムーズに行えるようになりました。ひとりでも多くの方が安全に食事を摂取していただけるよう「口からたべること」をささえる活動を続けていきたいと考えています。



山本言語聴覚士

高田看護師



新年度を迎え、看護部には新たに25人の新人看護師が入職しました。4月1日から新規採用者研修が開催され、最初は緊張した面持ちでしたが、4日間一緒に研修を受けると共にうち分け、仲間同士の連帯感も強まったようです。

現在、新人看護師は各病棟に4〜5人ずつ配属され、業務に励んでいます。まだまだひよっこで、おどおどすることも多く、みなさま方にご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、若さと笑顔でがんばっています。温かく見守ってください。

がんばれ!

新人 看護師



よろしくお願
いいたします。
がんばりまーあ!!

当院での事前研修の様子を紹介いたします



集合研修の様子です 看護部看護基準・看護記録・接遇などについて学んでいます

新人
です



シャドウ研修の様子です



新人
です

シャドウ 研修とは…

平成19年より開始。臨床現場で先輩看護師と共にベッドサイドに同行し、看護師の仕事の一部始終をシャドウ(影)となって見学することです。

新人
です



各部署での
看護技術中心の
集合研修の様子です





「今、地域活動が面白い」

野田内科医院
院長 野田隆志



CLINIC DATA

野田内科医院

〒939-3542 富山県富山市水橋開発1
TEL076-478-2010
(診療受付時間)
8:30~12:15/15:00~17:40
(休診日)
木曜・土曜日午後

240世帯程度の町内の夏祭りを始めて今年で7年目になる。開業したての頃、挨拶代わりにと思い町内会の総会に出たところ、30代から40代の人には私一人だけであとは殆どお年寄りの男ばかりだった。これではよくない、このままでは町内のことは10年後20年後には誰も分からなくなるだろうと考え、児童会のお父さん方に働きかけて相談した結果、納涼祭をすることにした。それが7年前。

6年前には、地域の問題を話し合っているという会の立ち上げに加わった。あまり上手くいっていないが、防犯活動や小学生の安全などについて月に一回の会合があり、時に提案している。また月一回の防犯パトロールにも参加している。因みに、私がこの会の防犯キャップ(帽子)のシンプルなデザインをして、採用になった。(この会合は第4火曜日で済生会病院の病診連携の会とも重なっていました。出席できなくて申し訳ありません)

地域の小学生対象のサッカークラブのコーチをしていた。指導員の資格もとったけれど、火、木、土、日の練習や試合のスケジュールは並大抵のことではなかった。4年位前に辞めざるを得なかった。

それとは別に自分のシニアサッカーのチームでマネージャーをしたりしていたのが4年前くらいまで。その後も試合や練習に選手として頑張っていたが、これ

も忙しくて今は殆どでない。

去年までは子供のサッカーの父母の会の一員だった。子供の練習や試合の送り迎えに始まり、クラブ全体の冬のリフティング大会の原案づくりやその会合、土日ごとの試合のコート設置などの準備など。また6年生送別会ではトナカイのきぐるみを着て踊った。

学校の体育館が改築されてその備品などのための寄付金集めをしていたのが、去年の冬ころ。小学校卒業生で県外在住の方に案内文を郵送する作業をした。打ち合わせや名簿作成などに時間がかかった。

地域活動ではないが、去年は小学校と高校の同窓会の幹事をした。小学校は卒業以来36年ぶり、高校は卒業以来30年ぶりに学年全体の同期会をした。相当盛り上がった。高校のクラス幹事として、2年連続で東京でも開催してもらい、遠征して参加した。

今、小学校PTAの役員をしている。なかなか人遣いの荒い会で、男性の参加が少ないこともあり、たびたび診療所を臨時休診にして、参加している。案内文の発行や資料整理で、午前2時は普通、4時から5時までかかることもある。これがまたうまく出来ないけれど、楽しい。忘・新年会や軟送迎会・バスハイクなどは大概幹事役をする。多い月には12~13回程度PTA活動に召集され、このような懐かしさが向こう2年は続く。このあとは、PTA主催の4から6年を対

象とした運動クラブの練習メニュー作成、PTA総会の資料づくり、地区軟送迎会の運営がある。色々考えてこの4月から土曜日の午後を診療時間からはずした。自分でもちよつとやりすぎではないかと思う。もう少し穏やかな人生、もう少しゆとりのある一日を過ごしてもいい。このままでは余力を日々の診療や家庭につかうことができないのだ。なかなか病診連携の会に行けない。

今週木曜日には、今年から新たにできる小学校区の地域フェスティバルの第一回打ち合わせがある。大掛かりなものになるらしい。PTAからは私しか出席できない時間帯の会合なので、私が出席する。またひとつ活動が増えそうだが、地域の方々が幸せになればそれでいい。これもきつと楽しいイベントにしたいと思う。

済生会病院には、病院の移転前で5年間お世話になった。おとしは母が大腿骨頸部骨折で2ヶ月ほどご面倒をかけた。あの5年は私の肉体の一部になっている。

今、私が済生会病院のためにできることもあまりありませんが、心から、感謝しています。有難うございます。

A E D 講習会

医療安全管理者 谷川 静子

AED(自動体外式除細動器)は、一般の方々が緊急に対応できるように、学校や集合施設など至る所に配置されています。院内では4箇所に設置されており、すでに実際に使用されたこともあります。

医師や看護師以外にもAEDが使用できるように、先日院内でBLS(一次救命処置)研修を行いました。講師は循環器内科の医師が中心となり、BLSの講義の後、シミュレーションを行い、参加者全員が体験しました。始めは緊張した雰囲気でしたが、全員が実践しながらの救命処置に取組みました。BLS・ACLS(二次救命処置)の講習を受けた看護師スタッフも参加し、終盤はなかなかの雰囲気、指導医のいろんな状況下での設定にそれぞれ取組みました。

「AEDは知っていたが実際に機器を見たことがなかったし、触ったことがなかったのでよかった」という意見が聞かれ、実際にAEDを使った研修に40数名の参加がありました。今後も病院職員全員で継続的に取組んでいきたいと思っています。



済生会病院は地域の開業医の先生と手を組んであなたを診ていきます

済生会富山病院は
開業医の先生と連携しています

<済生会富山病院>



逆紹介



<かかりつけ医>

紹介



「地域医療連携」という言葉をご存知ですか？

厚生労働省は医療機関の役割分担を進めています。急性期病院やかかりつけ医(地元の開業医の先生)といった医療機関がそれぞれの役割・機能を発揮して、患者さんに最善で最適な医療を効率よく提供できる地域社会の構築を目標としています。そのため様々な役割を担った医療機関が地域の中で密なる連携を行うことが重要になってきています。これを地域医療連携といいます。

済生会富山病院は地域医療連携を推進しています

病状の落ち着いている患者さんは、地元の開業医の先生(かかりつけ医)へ紹介します。現在エントランスホールに地域の開業医の先生を紹介したパネルを展示していますので、ご自分の地域をご覧になり、かかりつけ医への紹介をご希望の方はご連絡なく主治医にご相談ください。また、かかりつけ医に関するご相談は、地域医療連携室でも受け付けています。

